



新成人に聞きました 私のいたいこと



うえき だいすけ
植木 大介さん
(祖母井南)

若者の声や力を届けるには

家族や町民の皆さまの支えにより、新成人の年を迎えられたことを心より感謝いたします。コロナ禍の昨今、多くの課題に直面し、未曾有の危機に陥り、様々な変革に迫られています。それを打開するものの一つとして、若者の柔軟で斬新な発想と行動力、そして、情熱であると信じています。だから、私たちの若い声や力を国政や地方自治に届けたいのです。

例えば、町民の意見や要望、陳情等に触れ、我々世代の考えを述べる場を得たり、公共施設等に意見箱を設置したりすれば、容易に発信ができます。また、私たちの次世代に議会を身近に感じてもらう機会として、学生による議会の開催も考えられます。

私の大切な時間を過ごしてきた芳賀町がさらに発展し、良い方向に進んでいくことを願っています。



たかむら まいか
篁 茉依果さん
(ハツ木)

より住みやすい芳賀町へ

私は芳賀町で18年間過ごしました。進学に合わせて、都心と地方の両方での一人暮らしを経験しましたが、自然に囲まれた環境でのびのびと過ごせたことは貴重だったと思います。一方で、交通の便が悪く通学等において親の負担が大きかったです。交通手段として自転車しか使えなかった中高生の頃は不自由を感じていました。また、自由に動けないことを理由に、無意識ながら経験を積む機会を狭めていた気がします。

LRTの造成工事が進行中で、そんな不便も解消されるのでしょうか。帰省の度にその工事が着々と進んでいる様子が見られ、運行開始がとても楽しみです。加えて、LRTを軸にしたバス路線の再編等が計画されていると聞きます。公共交通機関が充実すれば、もっと魅力的な街になるのではないのでしょうか。LRTを有効活用した新たな交通網に期待しています。



てづか そうりゅう
手塚 爽流さん
(西水沼)

故郷を思う

初めて新型コロナウイルスが報告されてから、早2年という月日が経ちました。今ではウィズコロナ・アフターコロナと言われるほど、日本の生活様式や企業活動が変化しています。今後も多大な影響が予想される社会を私たち新成人はどのように歩んでいくか、令和4年は「試される年」ではないでしょうか。

20年もの間過ごしてきた芳賀町の自然の豊かさ、地域の繋がりは私に故郷の安心感、温かさを与えてくれました。自然と共に人と人が親睦を深め、協力し合える関係性が住み心地の良い町にしていると感じます。そんな芳賀町に私は「与えられる側」から「与える側」になりたいです。今ある芳賀町の魅力に加え、その土地に根差した活動に力を入れることで、地域活性化に貢献したいと考えています。

生まれ育った町に恩返しができるその日まで、歩みを止めず、前を向いて進みます。